

日本国内を一望する超広域スタティック測位

Superwide Static Positioning commanding a Whole View of Japan

川俣 健一 [1]

Kenichi Kawamata[1]

[1] ASJ

[1] ASJ

【はじめに】

現在50km四方のスタティック測位は二三公表されているが、日本国内全域をカバーする2000km四方のスタティック測位は公表されていない。そこで、今回日本国内を一望する超広域スタティック測位を精密暦を使い行った。

【目的】

一辺2000kmを超える極めて広い地域において、静止物体の位置を極めて高精度で測定することである。

【観測地域】

稚内から沖縄までの日本国内全域。

【システム構成】

日本国内に四箇所の観測点を設け、四個の精密暦を設定する。

(観測点) 熊本相良、音威子府、岡山中央、八郷

(測定点) 日本国内全域の電子基準点。

【観測手順】

(測定時間間隔) 30秒

(測定マイクロ波) L

(測定物) 累積位相、疑似距離

【測定結果】

1. 電子基準点の位置を国土地理院公表値を基準として、数十cmから数mの範囲内に求めた。
 2. 観測点の時計の進み遅れ、即ちアンビギュイテイによる測位誤差は屈服できた。
 3. 位相及び疑似距離の読み取り時のフラッキにより、測位は常に数十cmから数mのフラッキがあるが、読み取り時のフラッキを小さくすることにより、測位の精度はmm以内に求めることができることが判った。
- 以上詳細は大会会場で発表する。